

令和 6 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立粉浜幼稚園
令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○本園は、今年度創立 100 周年を迎えた、地域の方から大切に支えられ見守られてきた温かい歴史ある幼稚園である。しかし、保護者の保育ニーズの変化など今般の状況から、園児数が減少してきている。粉浜幼稚園の良さを生かした特色ある取組を通して、どのように教育内容を充実させていくか、また、園の魅力をどのように発信していくかを大きな課題と認識し、令和 5 年度から取組を積み重ねている。教育内容や行事、地域との交流などについて、教職員全員で一つ一つ見直し園運営を行った結果、未就園児園庭開放の登録者が 38 名になり、令和 6 年度の新入園児数も増加した。また、在園の保護者からは、小規模園であるが、アットホームな良さがあり、様々な方と交流することで人との関わりが増え、子どもたちの心が豊かに成長しているという意見があった。

また、令和 5 年度の園運営全体を通して、中期の目標の達成状況は、ほぼ目標通りに達成できたと言える。4 年計画の 3 年目として、更に改善点を考え、取り組んでいく。

【安全・安心な教育の推進】

○安全指導において、子どもの実態に合わせ、危険な箇所や行動などを把握し、環境構成の見直しを図り、全教職員で全園児を見守る体制づくりに力を入れてきた。また、災害時や緊急時に自分で自分の身が守れるような避難訓練の積み重ねや想定したことがない場面を様々に考えて訓練し、教職員自身の危機対応に対する意識を高めていた。今年度も取組を継続し、『子どもたちが、生活の中で、安全に過ごそうとする気持ちが育つような保育内容や環境の工夫を行い、園での取組を保護者に伝わるような工夫を行っていきたい。

○挨拶は、コミュニケーションをとるために重要なものである。昨年度の取組で、教師や友達に自分から挨拶する子どもや挨拶当番に意欲的に取り組む子どもが増えてきている。しかし、園の取組や園内で子どもたち一人一人が進んで挨拶をしようとする成長の姿が、保護者に伝わりにくい所もあった。今年度は、子どもたちが挨拶をする心地良さや大切さを感じ、進んで挨拶ができるように、年間計画を見直す。また、園の取組や子どもが成長していく姿が保護者に伝わるように保育内容や情報発信の工夫を行い、保護者が子どもの育ちを実感できる工夫をしていきたい。教師や子ども、保護者が共に挨拶の気持ちよさを感じていけるように、取り組みたい。

○昨年度の取組で、子どもたちは、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の思いに気付き受け止めて遊ぶようになってきている。今年度は、さらに、お互いの思いや違いを認め合い、育ち合うことができるよう、話し合いの時間を大切にし、指導内容の工夫を行いたい。教職員の園内委員会を充実させ、一人一人の子どもの実態や課題、支援の方向性を共通理解し一人一人を大切にした教育を目指していきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 5 年度から、第 3 ブロック研究部の研究主題を基に、「遊びの中で、体を動かして遊ぶことを楽しむ子ども」を育てるために、環境や保育内容、教師の教育的な働きかけを工夫してきた。体を動かして遊ぶ時間を十分にもち、毎日教育内容を工夫して継続して取り組む中で、子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きになり、遊びの中で、多様な動きが身に付き、挑戦する意欲も育まれた。今年度も、その時期に応じた遊びの中で、より体を動かして遊ぶことが楽しめるような教師の働きかけや環境の工夫をし、子どもたちの育ちにつなげていきたい。また、昨年度から大切にしている異年齢の交流内容を工夫し、お互いに影響し合い育ち合えるように、工夫していきたい。

○健やかな体の育成では、保護者と連携した取組の継続により朝食摂取、手洗い・うがいの習慣など家庭でも身に付いてきている実態があった。今年度も、健康な生活習慣が身に付くように更に子ども一人一人への指導を工夫すると共に、家庭でも継続して取り組めるように工夫していきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

○教育内容充実のためには、教職員が生き生きと働くことができるよう、働き方改革推進プランに基づいて取組を進めることが重要である。今年度、新たに目標に掲げ、ゆとりをもって効率的に仕事が進められるように工夫していきたい。また、教職員の研修を深め資質向上に努めるとともに、チームワークを大切に、何でも相談しあい一丸となって教育活動に力を注げる体制を築いていきたい。

○家庭・地域等と連携・協働した教育の推進では、園の魅力を保護者だけでなく、地域の方や多くの方に発信できるよう、ホームページの更新回数を増やした。その結果、教育内容の理解が進んできている。また、新型コロナが 5 類に移行されたことで、未就園児園庭開放の実施や地域との交流も様々に行うことができた。今年度は、創立 100 周年をお祝いする取組も含めて発信し、家庭・地域との連携を深め子どもの成長を共有していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるよう指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。
- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。
- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合を年度当初より向上させる。
- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

園の年度目標

- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。
- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。
- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

園の年度目標

- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合を年度当初より向上させる。
- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

園の年度目標

- 本年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・昨年度から大きく2つの課題 (1)粉浜幼稚園の良さを生かし、特色ある取組を通して、どのように教育活動を充実させていくか (2)園の魅力をどう発信していくか を掲げ、運営に関する計画に基づき、教職員全員で教育内容を工夫して園運営を行ってきた。
(1)少人数で、アットホームな幼稚園の良さを生かし、年間を通して行った異年齢交流。異年齢で影響を受け合い、育ち合う姿や互いを認め合う姿がたくさん見られた。未就園児、近隣幼稚園、小・中学校、地域の方々など、様々な方との関わりを通して、思いやり、あこがれ、安心感など豊かな心の育ちにつながった。また、教職員が一丸となり、一人一人を大切にして取り組んだ教育。今後も、小規模園であるからこそ、様々な方との交流を重視し、人との関わりの中で心豊かに一人一人を育みたい。
また、想定したことがない場面を様々に検討して積み重ねた避難訓練。計画的に機会を逃さず行った安全指導。家庭と連携が深まるように工夫した健康的な生活習慣が身に付く取組。挨拶の大切さや挨拶を交わす心地よさが、子どもだけでなく保護者も感じられるように工夫した挨拶の取組。体を動かして遊ぶことが楽しめる保育内容の工夫など、特色ある取組を通して、教育活動を充実させることができた。
(2)保護者に対しては、日々の子どもの姿や遊びの中での学びを伝える工夫。見るだけでなく、運動遊びや製作活動など一緒に体験できる参加行事の工夫などにより、教育内容の理解や連携がより深まった。特に力を入れたホームページの更新は、保護者だけでなく、多くの方々に幼稚園に関心や親しみをもってもらうことにつながった。
更に、今年度は、創立100周年を迎えて、1年を通してお祝いする取組を、教職員だけでなく事業委員会・PTA・地域の方々と工夫して行った。今まで大切に育んできた粉浜幼稚園の教育内容や魅力を大きく発信でき、住之江区唯一の公立幼稚園として、今後も教育の要となるよう期待が高まった。
- ・年度末の保護者アンケート結果について、大部分で幼稚園の取組が評価され、年度目標を上回って達成することが出来た。特に、「幼稚園は、園内での異年齢の交流や様々な人の交流やふれあいなどを大切にしている」について「そう思う」と答えた保護者が100%、「幼稚園は安全教育、防災教育に計画的に取り組んでいますか」92%、「幼稚園は遊びを中心に体験を大切にした教育活動の工夫をしている」92%であった。
今後も、粉浜幼稚園の特色を生かし、園の実態を捉えて、教育内容を充実させ、「心身ともに たくましく 心豊かな子ども」を育んでいきたい。

大阪市立粉浜幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるよう指導や環境の工夫を行っていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校安全計画に基づき、安全指導を行う。 (安全教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて、安全に過ごそうとする気持ちが育つような保育内容、環境の工夫を月に1回行う。 ・園だよりやホームページ、掲示物等で、学期に1回以上、保護者啓発を行う。 ・関係諸機関と連携した防犯、交通安全指導を年2回実施する。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>災害時や緊急時における約束を知り、自分で考えて避難できるような指導を行う。 (防災・減災教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年間計画を見直し、多様な想定の避難訓練を年10回以上実施する。 ・機会を捉えて年10回以上、保護者啓発を行う。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自分から進んで挨拶をする子どもを育てる。 (道徳教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の取組について年間計画を見直し、挨拶運動を学期に1回行う。 ・月に1回以上、園だよりや降園時の連絡などを利用し、保護者啓発を行う。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自分の気持ちや相手の気持ちに気付き、互いを認め合う子どもに育つような指導方法を工夫する。 (人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回園内委員会を行い、一人一人の子どもの実態把握や課題、支援の方向性などを共通理解する。 	A

- ・自分の思いを出したり、友達の思いを受け入れたりできるよう、クラスでの話し合いの時間を週2回以上もつ。
- ・学期に1回以上、指導内容や子どもの姿を知らせ、保護者啓発を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○保護者評価アンケートにおいて肯定的な回答、「そう思う」の割合

項目	7月	11月	2月
① 「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫を行っていますか」	肯定的回答 100%	100%	100%
② 「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」	肯定的回答 92%	84%	81%
③ 「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」	そう思う 83%	96%	(肯定的回答 100%) 85%

②「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」肯定的回答が年度当初より低くなつたのは、成長が実感しにくかったり、伝わりにくかったりしている部分やアンケートの未回答が7%あったことなどが要因ではないかと思われる

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫を行っていますか」について、肯定的回答は、年間を通して100%だった。

○毎月、子どもの実態に応じて、安全に過ごそうとする気持ちが育つような保育内容や環境の工夫を行い指導することができた。また、子どもたちの安全のために、教職員間で連携を図り、危険につながる子どもの様子はすぐに伝え合い指導を積み重ねた。4歳児は、クラスで機会を捉えて、園生活を安全に過ごすために必要な行動について話し合い、少しづつ安全への意識が高まり、友達同士で声をかけあう姿も見られるようになった。5歳児は、特に3月に園内を探検し、安全に過ごすために必要なことは何かを考え、気付いたことを絵や文字に書いてポスターを作成し、各箇所に掲示をする姿になった。周りの友達に伝えたいという思いが高まった。また、関係諸機関と連携をはかり、1月に住之江警察から「交通安全指導」、3月に大阪府警から「防犯教室」を実施した。1月の交通安全指導では、遊戯室で横断歩道の渡り方を教えてもらい、実際に歩く体験ができた。翌日に園外に出る機会があり、教えてもらったことをすぐに実践する姿が見られた。3月の防犯指導では、誘拐を防ぐために「知らない人にはついていかない」「大きな声を出して助けを呼ぶ」など約束を楽しく分かりやすく教えてもらい、防犯への意識を高める機会となった。保護者向けの話をしてもらい、保護者も安全に対する意識が高まり、家庭との連携につながった。

学校安全計画に基づいて、指導した内容

4月	○園内の安全な生活の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・園内での安全な過ごし方について、パペット人形を使ったり、絵にかいたりし、視覚的に知らせた。 ○遊具・用具の安全な使い方 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具・用具を使う際に、その都度、使い方や約束を確認し、話し合った。
5～6月	○園外保育での安全行動 <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育前に、安全な歩き方や信号の渡り方などについて、園内で遠足ごっこをし、実際に子どもたちが体験することで、安全への意識が高まるようにした。

	<p>○登降園時の安全な行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・門から出るときは、子どもだけで飛び出さず、必ず保護者と手をつないで出ることを、クラスで知らせた。また、降園連絡の中で、保護者にも知らせた。 <p>○熱中症の予防・適度な水分補給と休息</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出るときは、帽子を被ること、こまめに水分補給をすることを、視覚表示を用いて知らせた。また、子どもが自ら、熱中症予防について考えられるよう、日々、丁寧に声をかけた。水分補給については、一人一人の飲む量を担任が確認した。 <p>○雨の日の安全な生活の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下、室内では歩くことを知らせた。梅雨時期は、雨の日の過ごし方を子どもたちと一緒に考える機会をもち、安全に過ごせるようにした。
6～7月	<p>○暑さに対する、安全な過ごし方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑さ指数について視覚掲示で知らせ、子どもたち自身が、水分補給をしようとする意識をもったり、屋外での活動について、考えたりできるようにした。 <p>○水遊び、プール遊びでの安全な遊び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びでの約束について、危険な行動、安全な行動を実演して知らせた。また、繰り返し、約束を知らせる言葉かけをし、子ども自身が考えて行動できるようにした。
8～10月	<p>○暑さに対する、安全な過ごし方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑い日が続いたため、継続して、暑さ指数について視覚掲示で知らせた。また、子どもたちが自ら水分補給の大切さを感じられるような話を視覚物を用いて、担任が養護教諭と連携して行った。教職員でその日の熱中症アラートを確認し、連携を取り合い、子どもたちが安全に過ごせるよう、屋外での活動時間のもち方に配慮した。 <p>○遊具の安全な使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい運動遊具を使う前に、安全な使い方を知らせた。
10～12月	<p>○製作時に使う道具の安全な使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみや段ボールカッターを使用するときの約束を確認した。（使ったらすぐに戻す、はさみの正しい持ち方、段ボールカッターの持ち方や使うときは教師に知らせてから使うなど） ・展覧会に向けた活動の中で、子どもたちの動線を考えて、物を置く場所を考えたり、使いやすく片付けがしやすいように、出す量や大きさを考え、素材や材料を分類したりし、環境を整えた。 <p>○交通ルールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降園時の子どもの様子から、タイミングを逃さず、交通ルールを守ることの大切さを紙芝居や写真を通して知らせた。その話を保護者にもすぐに伝え、啓発した。また、登降園時に保護者と一緒に園門を通るよう、子どもにも保護者にも話をした。交通ルールを守る行動は、日頃の生活で身に付いていくので、家庭でも継続して知らせていくことが重要であることを伝え、啓発した。
1～3月	<p>○身の回りの安全についての再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「室内では走らない」「使ったものは元の場所に片付ける」など、再度確認し、自ら気付いていくよう、投げかけ指導した。 ・5歳児は、園内を探検し、安全に過ごすために必要なことを考え、絵や文字にかいてポスターを作成。4歳児や、新入園の友達に知らせたいという思いで掲示していた。（廊下は走らないよ、階段は走らないでね 等）

○安全におけるねらいについて、毎月の園だよりで知らせ、降園連絡の時にも伝え、保護者啓発を行ってきた。

4月	○園生活の約束やきまりを知る ○手洗い・うがいをする
5月	○園庭で遊ぶ時の約束を知り、守ろうとする ○熱中症予防のため、こまめに水分補給をする
6月	○雨の日の過ごし方について考える ○こまめに水分補給をする
7月	○戸外に出るときは帽子をかぶり、こまめに水分補給をする
8・9月	○こまめに水分補給や休息をとり、熱中症予防に努める ○遊具・用具などの安全な遊び方について、再確認する
10月	○遊んだ後は、休息をとる ○正しい遊具の使い方を再確認し、ルールを守って遊ぶ
11月	○製作道具（はさみやのりなど）の正しい使い方を再確認する
12月	○ポケットに手を入れない ○手洗い・うがいを丁寧にする ○運動遊びが安全にできるように、用具の安全な使い方を確認する ○交通ルールを守る
1月	○進んで体を動かし、安全な行動をする ○寒い時の安全な過ごし方を知る（ポケットに手を入れない、背筋を伸ばすなど）
2月	○寒い日の安全な過ごし方について考え、安全に気をつけて過ごす (背筋を伸ばして歩く、ポケットに手を入れない など)
3月	○風邪などの感染予防に努める（手洗い・うがい・消毒を丁寧にする など） ○安全に気をつけて過ごす（廊下を走らない・自分たちで園内に危険がないか点検し、安全に対する意識を高める）

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

○年間計画を見直し、避難訓練を13回、計画以上に実施することができた。

	想定	内容
4月	火災 (保育室で活動中、 北側民家から出火)	放送や非常ベル、担任の指示を聞き、ハンカチで鼻と口を覆い園庭（鉄棒前）に避難した。4歳児は初めての訓練だったため、5歳児が避難する様子をテラスから見学し、避難訓練について知ることができた。
5月	火災 (保育室で活動中、 作業室から出火)	全園児で園庭（南門）に避難した。2次避難の可能性を視野に入れた訓練をしたことで、避難経路の確認ができた。
6月	地震 (保育室で活動中、 地震発生)	緊急地震速報の音や放送、担任の指示を聞き、ダンゴムシのポーズで安全姿勢をとった。揺れが収まった後、防災頭巾をかぶり、園庭（遊具が倒れてこない真ん中）に避難した。
7月	不審者対応 (保育室で活動中、不審者が正門付近にいる)	不審者を発見した教職員が、合言葉で周りの教職員に知らせ、子どもたちは指示に従って不審者から見えないように静かに避難した。

	8月	地震【保護者合同】 (遊戯室で始業式中、地震発生)	保護者も園児と一緒に緊急地震速報の音や放送を聞き、安全姿勢をとった。保護者は、子どもたちの様子や避難方法を見たことで、災害時の身の守り方について改めて考える機会になった。
	9月	地震【保護者引き渡し】 (保育室で活動中、地震発生。メールで保護者に迎えに来てもらうよう連絡) 地震【預かり保育中】 (預かり保育中、地震発生)	地震時の身の守り方について再確認し、指示に従って落ち着いて避難した。全園児を1つの保育室に集め、教職員で連携を取りながら、確実に保護者に引き渡す訓練を行った。 預かり保育中の地震発生時、2階から安全に避難することや教職員の動きについて確認した。
	10月	不審者対応 (園庭で活動中、不審者が正門付近にいる)	教師の指示で、安全な室内に避難する。教職員は不審者に刺激を与えないよう気を付けながら、全園児を安全な場所に誘導する。
	11月	地震・火災 (保育室で活動中、地震発生。作業室から出火)	緊急地震速報や放送を聞き、安全姿勢をとる。防災頭巾を被り、ハンカチを鼻口に当てて火元から遠い場所（園庭東門近く）に避難した。
	12月	火災【予告なし】 (園庭で活動中、作業室から出火)	放送やベルの音を聞き、指示に従って火元から遠い東門近くに避難した。園舎内で作業をしていた保護者も訓練に参加した。
	1月	地震・津波【粉浜小学校へ避難】	地震の後、津波警報が出たとの想定で、粉浜小学校の4階に避難した。小学生と一緒に、小学校の校庭に並び、階段を上って避難することで、大津波がきた時の確認ができた。また、園外に避難する時に持ち出す物の確認もした。
	2月	地震・火災【予告なし】 (2クラス合同で遊戯室での活動中、作業室から出火)	2クラスで2階の遊戯室での活動中に地震が起き、作業室から火災発生。外の非常階段を降り、園庭東門辺りに避難した。近くに机や椅子、防災頭巾が無い時の身の守り方や普段使うことのない非常階段を降りる貴重な訓練ができた。また、遊戯室の放送が聞こえにくいくことがわかり、放送の音量を確認できた。
	3月	地震・津波【予告なし】 (それぞれが好きな場所で好きな遊びをしている時に地震が発生)	東日本大震災が発生した日に合わせて訓練をしたことで、その出来事について考えることができた。また、自由に遊んでいる時に、予告なしで訓練を行い、状況に合わせて身を守る行動について、子どもも教職員も考え直すことができた。

○事前にイラストなどの視覚教材を用いながら訓練の内容やその意味を知らせたことで、泣いたりすることなく、落ち着いて訓練に参加していた。訓練後は、振り返りの時間を丁寧にもつことで、非常時に約束を守って行動する大切さを伝えた。5歳児は昨年の経験をよく覚えており、訓練を積み重ねていくことで、身の守り方が身に付いてきていると感じた。

預かり保育中の避難訓練では、預かり保育室が2階にあることから、教職員がすぐに2階に上がり指導員と連携して園児を安全かつスムーズに避難させる方法を確認した。

12月と2・3月の訓練は予告なしで行い、どのような場面でも、自分で自分の身を守る方法を考えて行動することが大切で、子どもは放送や教師の指示を聞くことの大切さを学んだ。

教師が教材研究も行い、絵本「あそぼうさい」などを通してわかりやすく知らせたことで、子どもが絵本の内容を真似て自ら身を守ろうとする姿につながった。

1学期の途中から、子どもの出欠状況把握のため、その日の各クラスの出席人数を担任同士でも伝え合うようにした。どのクラスのことも把握でき連携が深まった。

○保護者への啓発が13回以上できている。保護者に、避難訓練を実施した日の降園連絡で、避難時の子どもの様子やどのような想定で、何をねらいとして行ったかを知らせた。ホームページに写真を載せることで、避難の様子を分かりやすく伝えた。また、夏休みに防災頭巾を自宅に持ち帰っている間に、被る練習をしてみるようお願いした。安全への意識を親子共にもてるようにするなど、保護者啓発につなげた。

9月の引き渡し訓練では、地震発生時を想定した送り迎えのルートや危険な場所の確認を保護者にしてもらった。また、防災頭巾を被ったまま帰宅し、園児も保護者も実際の災害を想像し、行動を確認することができた。9月から保護者への連絡方法が一斉メールから「コドモン」アプリでの連絡に変更になった。そのため、連絡手段の変更に対しても確認を行った。

12月と2月の訓練では、園内にいた数名の保護者も訓練に参加することで保護者自身の意識が高まるとともに、子どもたちが避難している様子を見て教育内容の理解につながった。

○1年間の避難訓練を通して、教職員はどのような場面においても、緊急時はお互い声をかけ合い、連携することの大切さを再確認した。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

年度当初に見直した「挨拶の取組年間計画」に沿って、挨拶の取組を行った。

○挨拶の取組年間計画

1学期	5月20日～ 5月24日
2学期	10月21日～10月25日
3学期	2月10日～ 2月14日

	挨拶	○ねらい・取組内容
一学期	・おはようございます	○教師や友達と挨拶を交わす心地よさを感じる（4歳・5歳） ・登園時や降園前に、クラスで挨拶を交わす。 ・絵本「こんにちは」
	・ありがとうございます	○挨拶当番を決め、意欲的に取り組む（5歳） ・挨拶当番が、登園降園時に玄関前で挨拶を行う。 ○ありがとうの感謝の気持ちを感じる（4歳・5歳） ・絵本「こぐまちゃんありがとう」「ありがとうのえほん」などを読み、ありがとうの気持ちを考える。
二学期	・おはようございます ・行ってきます ・さようなら ・お願ひします ・良いお年を、 おむかえください	○教師や友達、お家の人と挨拶を交わす喜びを感じる（4歳・5歳） ・朝の会や降園前に、クラスで挨拶を交わす。 ・お家の人に、「行ってきます。」と挨拶する。 ○ものを頼むときに、言葉に出してお願いする大切さを知る（5歳） ・友達や当番、教師に仕事を頼むときに、言葉に出してお願いする習慣をつける。 ○年末の挨拶があることを知る。（4歳・5歳） ・今年が終わり、新しい年を迎える話を聞き、みんなで挨拶する。

三 学 期	・あけましておめでとうございます	○年明け初めて会う教師や友達とする新年の挨拶があることを知る。(4歳・5歳) ・みんなで新年の挨拶をする。
	・おはようございます	○挨拶当番が、気持ちの良い挨拶を意識し意欲的に取り組む(5歳) ・挨拶当番が、登園降園時に玄関前で挨拶を行う。
	・お願ひします	○感謝の気持ちを伝える心地よさ、言われた時の嬉しさを感じる(4歳・5歳)
	・ありがとうございます	・当番が仕事をしてくれたり、友達が手伝ってくれたりした時などに感謝の気持ちを伝える。
	・ありがとうございました	・一緒に遊んだ友達や、お世話になった人々に感謝の気持ちを伝える。 ・家庭でも、お家の人人に感謝の気持ちを伝える。

○計画通り、学期に1回、5歳児が中心となり挨拶運動を実施できた。

挨拶週間に向けて、5歳児は昨年の経験から、あいさつ隊の時に身に付ける旗やたすきなどを自分で考えてつくる姿や、当番に期待をもつ姿が見られた。3月の挨拶運動は毎日5歳児全員で挨拶をした。友達と一緒に声を合わせて挨拶をすることに気持ちよさを感じる姿が見られた。また、あいさつ隊の5歳児が門に立って挨拶することで、4歳児も積極的に挨拶をする様子が見られ、保護者への啓発にもつながった。

○月1回の園だよりに、挨拶に関することや、「今月の挨拶」を掲載して、保護者啓発に努めた。

5月…挨拶週間（挨拶当番）「元気に挨拶」

6月…「おはようございます」「さようなら」

7月…「ありがとうございます」

8・9月…「おはようございます」「行ってきます」

10月…挨拶週間（挨拶当番）「おはようございます」「行ってきます」「さようなら」

11月…「お願ひします」

12月…「さようなら」（挨拶当番とその保護者による挨拶を実施）

「よいお年をお迎えください」

1月…「あけましておめでとうございます」「おはようございます」

2月…「おねがいします」「ありがとうございます」

3月…「ありがとうございました」

毎月の園だよりを配布するときには、「今月のあいさつの目標」について保護者に知らせた。子どもたちにも視覚掲示を作成し、分かりやすく挨拶の目標について知らせた。2学期から降園連絡後の挨拶の時、クラスの当番の子どもとその保護者が前に出て、一緒に挨拶をする取組を積み重ねた。保護者にも子どもの活動を体験的に知ってもらうことで、挨拶の大切さや気持ちよさ、子どもの気持ちを感じてもらう機会となった。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

○毎月、計画以上に園内委員会を行い、子ども一人一人の実態を把握することができた。それぞれが、子どもの様子を伝え合うことで、多面的に子どもの姿の理解をし、支援の仕方をその都度考えて、全職員が同じ方向で支援できるようにした。

○クラスでの話し合いの時間を週2回以上もった。振り返りの時間につくることで、自分の気持ちや思いを出し、それを聞いてもらえることで安心し、また話してみようという気持ちになってきている。言葉で伝えることが難しい子どもも、教師が仲立ちとなることで、絵カードを使って気持ちを伝えようとする姿が見られるようになってきた。友達との関わりの中で、

思いの行き違いがあった時、その場で話し合うことで互いの気持ちに気付けるように支援した。保育室に『どんな気持ちかな』『こんなとき、なんて言う?』などの視覚教材を掲示し、自分の気持ちや友達の気持ちに気付き、どのような言葉で伝えるのがよいか、共に考える時間をもった。自分の気持ちを伝えたり、友達の思いに気付いたりしたこと、お互いに受け入れ、自分も友達も大切にしようとする姿につながってきた。

○学期に1回以上指導内容や子どもの姿を知らせ、保護者啓発を行うことができた。参観の時に、保護者にクラスの振り返りの様子を見てもらう機会をもち、どのように子どもたちの思いを教師が受け止め、クラスで共有しているのかを知ってもらうようにした。また、降園時や保護者会、「こはまっこだより」などで、子ども同士の関わりの中での育ち合いを伝えるようにし、保護者啓発を図ってきた。また、園での様子について、エピソードを交えながら個別に伝えることで、保護者が家庭で子どもに具体的な話ができるので、今後もこまめにコミュニケーションをとるように心がけたい。

次年度への改善点

取組内容①引き続き、安全面について教職員で環境を見直し、再構成していく。また、子どもたちに安全に対しての意識が高まるような保育内容の工夫をする。

取組内容②今後も時期や子どもの実態を踏まえて、様々な想定で計画的に避難訓練を積み重ねる。また、その都度教職員間の情報伝達方法なども再確認する。

取組内容③次年度は、年度末などに4歳児も挨拶運動に何らかの形で携われるよう保育内容を工夫したい。また、保育の中での挨拶に関する子どもたちの様子や成長を隨時、降園連絡などを活用して伝え、子どもの理解につなげたい。

取組内容④今後も、振り返りの時間を丁寧にもち、お互いの思いを認め合う子どもに育ち合うように指導内容を工夫したい。また、子ども同士の関わりの様子や指導内容を保護者に分かりやすく工夫して伝えながら、子ども理解を深め啓発していきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育推進と質の向上】</p> <p>様々な活動を通して、体を動かして遊ぶことが楽しめるような環境や教師の働きかけの工夫をし、保育内容の充実を図る。</p> <p>(就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、体を動かす楽しさを感じられるような保育内容や環境構成を工夫する。 ・学期に1回、保護者と共に、楽しく体を動かす機会をもつ。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>園児の実態を把握し、健康的な生活習慣が身に付くよう指導の工夫をし、家庭との連携をはかる。</p> <p>(健康教育・食育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握する。 ・子どもの実態・発達に応じた保健指導を月1回以上実施する。 ・健康的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携した取組を月に1回以上実施する。（「ほけんだより」など） 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
年度目標			
○保護者評価アンケートにおいて肯定的な回答、「そう思う」の割合			
項目	7月	11月	2月
「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」	そう思う 78%	92%	92%
「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いていますか」	肯定的回答 92%	96%	100%

取組内容①【基本的な方向3 幼児教育推進と質の向上】

○学期に1回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、体を動かす楽しさが感じられるような保育内容や環境構成を工夫することができた。

4・5月	集会、異年齢で関わりながら戸外遊び、フィンガーペインティング、サーキット、子どもの日の集い
6・7月	水遊び、泥遊び、チャレンジ遊び（年長）、プール遊び
8・9月	サーキット、チャレンジ遊び、リレー、かけっこ
9・10月	チャレンジ遊び、太鼓、縄遊び、サーキット、かけっこ、リレー、パラバルーン、ダンシング玉入れ
10～12月	リレー、転がしドッジボール、だるまさんが転んだ、サッカー、長縄とび
1～3月	劇遊びでの表現遊び、チャレンジ遊び（年長）、ダンス、しっぽとりぐるぐるじゃんけん、色鬼ごっこ

○4、5月は集会の機会をもち、友達や教師と一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるように体操や仲良し遊びをした。また、子どもの実態に合わせてサーキットやスケータなどの遊具を出したり、環境を整えたりすると、戸外で伸び伸びと遊ぶ様子が見られた。4歳児は、初めての園生活で不安な様子もあったが、子どもたちが遊びたくなるような環境構成の工夫をしたことで、好きな遊びを見つけ、楽しむようになった。5歳児は、自分たちでサーキットをつくるようになり、そこに4歳児も加わって、一緒に遊ぶことを楽しんだ。異年齢での交流も盛んに行っており、合同で遊んだパラバルーンでは、経験のある5歳児の姿を見て、真似ながら4歳児も活動に参加していた。パラバルーンでは手を伸ばしたり、揺らしたり、全員で同じ動きをして様々な技ができることに面白さを感じ何度も繰り返して遊びを楽しむ姿が見られた。

6、7月は水や泥で思いきり楽しめるように用具を準備したり、子どもたちの実態に合わせて日々環境を整えたりすることで、泥遊びや水遊びなど、存分に感触を味わい、体を動かして楽しむ姿が見られた。プール遊びでは学年ごとに活動し、発達や経験に合わせてプールならではの遊びができるような内容を工夫することで、子どもたち一人一人が挑戦したり、水の中で体を動かしたりして遊ぶ楽しさを感じる様子が見られた。合同でプールに入った際には、5歳児が水に顔をつけて泳いだり、足を伸ばしてワニ泳ぎをしたりする姿を見て、4歳児もやってみようと憧れの気持ちをもち、影響を受け合う姿となった。

8月～10月は、いろいろな体を動かす遊びが楽しめるよう、夏季オリンピックも参考に、各担任が子どもの実態に応じた保育の工夫をした。4歳児は、ジャングルでの探検をイメージしたサーキット遊びを楽しんだ。教師は、その時の子どもの状況に合わせてサーキット遊具を工夫したこと、子どもたちは、いろいろな動きのあるサーキット遊びを楽しむにつながった。（大小のフラフープをそれぞれ3個トンネルになるように組み合わせたもの、マットの上を四つ這いになって通れるマット、ゴムを活用し、クモの巣をイメージしたクモの巣くぐりなど）5歳児は、1学期からクラスでチャレンジ表をつくり、様々な遊びを楽しんできた。（一輪車、ペダルローラー、縄、ボール遊び、フラフープなど）1学期から継続して遊んできたことで、自分が挑戦したり、遊びの目標をもち、うまくいかない経験もしながら、諦めずに挑戦しようとする気持ちが育っていった。リレーごっこでは、チームに分かれて勝敗を競ったり、クラス全員でバトンつなぎ、日々タイムを記録したりするなど、実態に合わせた保育の工夫を行った。また、夏季オリンピックのリレー選手の様子を子どもたちと見る機会をもったことで、子どもたち自身が速く走る方法や姿勢について考える姿につながった。また、子どもたちが喜ぶようなダンス、体操の曲を選曲したこと、より体を動かして

楽しむ姿となった。

11、12月は、教師が子どもの実態に合わせて、ルールのある集団遊びが楽しめるようにともに遊んだり環境を準備したりした。5歳児に転がしドッジボールのルールを教えてもらいながら一緒に遊びを楽しむ4歳児の姿が見られ、ルールを守る大切さや体を動かす楽しさを感じて一緒になって毎日のように遊ぶ姿があった。

1月に園全体で研究保育を行い、お互いのクラスで遊んでいるごっこ遊びや体操・ダンスなどを一緒に楽しめる場を子どもと準備し遊んできた。2月には、各クラスの劇遊びをお互いに教え合って遊ぶ時間を設け、異年齢で交流して遊んだ。5歳児は、4歳児にいろいろな役になってどう表現するのかを伝え、4歳児は5歳児の表現を真似て、イメージの中で自分なりになりきって一緒に遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。戸外では、教師が新しい遊びができる教材を準備し、ルールを伝えて一緒に遊ぶことで、しっぽとりや、色鬼ごっこなど体を動かして遊ぶことがより好きになり、次第に子どもたち同士で声をかけあって一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。

○1学期に5回（誕生会…4・5月、6月、7月の計3回、ふれあいオリエンテーリング、こども夏祭り）、2学期に4回（誕生会…9月、10・11月の計2回、運動会での玉入れ、ケーキの飾りつけ）、3学期に3回（誕生会…1・2月、3月の計2回、お別れ会）保護者と共に、楽しく体を動かす機会を計画以上にもつことができた。

誕生会

4・5月…「さくらんぼん」6月…「あらってあらって」7月…「お星さまの玉入れ」

9月…「ピッタコ体操」11月…「この手は誰かなゲーム」

1・2月…「ぶるぶる」「おんせんはいろっか」3月…「ダンス！ダンス！ひなまつり」

5月…ふれあいオリエンテーリング…オリエンテーリング、パラバルーン

7月…こども夏祭り…盆踊り

10月…運動会…おうちの方と玉入れ、「ケーキをつくろう」

3月…お別れ会…「おたんじょう月なかま」

オリエンテーリングでは、スタンプラリー形式にし、おうちの人と一緒に体を動かして楽しめるコーナーをつくった。また、一緒にパラバルーンをして体を動かして遊べるようにした。誕生会でのふれあい遊びやふれあいオリエンテーリングなどを通して、保護者が一緒に体を動かして楽しむことはもちろん、子どもたちが幼稚園でどのようなことを楽しんでいるのかを体験し、理解してもらう機会になった。

創立100周年記念運動会では、保護者と一緒にケーキの飾りつけをしたり、一緒に玉入れをしたりして、共に体を動かして遊び楽しむことができた。

お別れ会では、今まで子どもたちが遊んできたことを見もらったり、普段幼稚園で遊んでいる「おたんじょう月なかま」を一緒にしたりすることで子どもの成長や体を動かして遊ぶ楽しさを感じてもらうことができた。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】

○年3回以上生活習慣調査を実施し、元気カレンダー・夏休み生活表・冬休み生活表や保護者アンケートから家庭での実態を把握できた。

5月連休に生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握した。

「げんきカレンダー」で起床・就寝時間、朝食、排便の様子を記入してもらい、実態を把握した。就寝時間が遅くなっても、起床時間はずれることなく、朝食、排便へつながる様子がうかがえた。日中、体を動かす機会を多くもつと早寝につながることに、保護者が気付く様子も見られた。1学期末の保護者アンケートでは朝食摂取の肯定的回答は約87%、歯みがきは81%の子どもが身に付いているという回答があった。

夏季長期休業中は「夏休み生活表」で、起床・就寝時間とともに家庭での様子を把握した。早起き・早寝のリズムができている様子もあれば、くずれても2学期に向けて立て直すことができている様子がうかがえた。

2学期に実施した保護者アンケートでは朝食摂取の肯定的回答回答は92%、歯みがきは88%の子どもが身に付いているという回答があった。

冬季休業中には「冬休み生活表」で、起床・就寝時間とともに、いろいろな野菜を食べることにチャレンジしてもらった。旬の野菜を中心に提示した野菜以外にも17種類の野菜にトライしていて、幼児の「食べてみよう」という意欲や保護者の食材への関心の深さにつながった。

3学期のアンケートでは、手洗い・うがいの習慣において92%の肯定的回答回答があり、家庭での感染症予防の意識も高まり、手洗い・うがいの習慣が定着している。

○子どもの実態・発達に応じた保健指導を月1回以上実施できた。

4月	朝食の大切さについて 手洗いについて
5月	排便について ぶくぶくうがいとごろごろうがいについて
6月	けがの予防
7月	睡眠の大切さについて 朝食の大切さについて
8・9月	汗のはたらき 熱中症の予防
10月	正しいいくつかの履き方 睡眠のはたらきについて
11月	心の元気
12月	風邪の予防
1月	正しい姿勢について 手洗い・うがい再確認
2月	衣服の調節

1学期は、手洗い・うがいなどの基本的生活習慣がしっかりと身に付くよう子どもの実態に合わせた保健指導を実施し、担任から指導内容を保護者に伝えることで、家庭での継続的な取組につながった。入園当初は手洗い・うがいをする習慣が身に付いていなかった子どももも必要性を感じ、実践できるようになってきた。

2学期は、基本的生活習慣に加え、季節や活動に応じて必要な内容を考慮し保健指導を実施した。幼児に実施した保健指導の内容を保健だよりや掲示物で詳しく伝え、家庭での継続した取組につなげることができている。

3学期は、感染症予防を中心に、手洗い・うがいの再確認、野菜を食べることの効果、衣服の調節などの保健指導を実施、手洗い後「手洗いがんばり表」にシールを貼っていくことで自ら進んで手洗いに取り組む姿が見られた。

○健康的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携した取組を月に1回以上実施できた。

保健だよりで取り上げた内容

4月	1日を元気に過ごせる朝の生活 朝食後の排便タイムについて 朝の健康観察 定期健康診断について
5月	疲れ解消に十分な睡眠を 早めの熱中症対策を
6月	梅雨時の健康について（体の清潔・手洗い・食中毒予防） 食育月間について 食生活と歯磨き プール入水前の健康チェック 夏の感染症について
7月	生活リズムを整える 質のよい睡眠 水分補給と熱中症対策 夏バテしない生活のポイント
8・9月	早起きのポイント 感染予防（基本は手洗い・咳エチケット） 新型コロナウイルス感染症の出席停止期間について
10月	水分補給でのペットボトル症候群に注意 薄着で抵抗力アップ 目の愛護デーについて
11月	質の良い睡眠について 風邪予防 衣服の調節

12月	薄着の効果 インフルエンザについて インフルエンザの出席停止期間について
1月	早起き・早寝で朝をスタート 見直そう野菜パワー 鼻水のかみ方
2月	効果的な衣服の着方 味覚を育てる 誤嚥事故に注意
3月	気温の変化に気をつけて 健康な生活習慣の見直し 子どもの花粉症について

1学期は生活リズムを整え、基本的生活習慣が身に付くような内容を取り上げた。また、保健だよりの内容と合わせてカード「おうちで できるかな」を作成し配付した。6月「寝る前の歯磨き」7月「朝ごはんを食べること」について家庭で振り返り、シールを貼れるようにした。1週間取り組むことで、家庭での継続した取組につなげた。シールを貼っていくことで、視覚的にできた様子が分かり、子どものやる気にもつながった。

2学期も継続して9月「熱中症予防のため朝食とともに水分をとること」10月「9時までに布団に入る」11月「外出後の手洗い・うがい」と季節に応じた内容で家庭でも生活習慣が身に付くように取り組んだ。保護者のコメントからは、家庭でも良い習慣が身に付いている様子が分かった。

3学期も引き続き、「おうちで できるかな」カードを作成して活用した。寒くても朝食を摂って体温を上げて登園できるよう取り組んだ。ほとんどの幼児が9時までに登園することにつながった。

また、冬休みから取り組んできた「野菜を食べること」につなげて、2月に食育講座を親子で実施した。保護者への講話で、野菜の効果や偏食への対応を聞くことができ、幼児には野菜スタンプで野菜の形に興味をもち、お弁当に入っている野菜も進んで食べる姿につながった。

次年度への改善点

取組内容①次年度も、時期や子どもの実態に合わせて、教職員間で連携しながら保育を考えていきたい。また、保護者と一緒に活動できるような内容を引き続き工夫し、子どもたちの園での様子を体験的に知ってもらう機会にしていきたい。

取組内容②子どもの実態に応じた保健指導を実施し、幼稚園での取組を発信し、家庭での継続した習慣につながるように工夫し考えていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○本年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と回答する割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>全教職員が健康で生き生きと働くことができるよう、働き方改革推進プランに基づいた取組を実施する。</p> <p>(教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革推進プランに基づき、週1回のゆとりの日を設定し、効率的に仕事を進める。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の資質向上を図る。</p> <p>(教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上、実践記録をとり、研究討議を行う。 ・学期に1回以上、研修会や他園参観などに参加し、学びを共有する。 ・各教員1回以上、全教員で年に1回、研究保育を実施する。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>家庭や地域に幼稚園の取組内容を知らせ、子どもの成長を共有する。</p> <p>(地域学校協働活動の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけなどについて、手紙や降園連絡、保護者会などで分かりやすく保護者啓発を行う。 ・週に2回以上、ホームページの更新を行い、具体的な保育の取組や子どもの育ちを知らせる。 ・他校種との交流や、地域の方々とのふれあいなど、学期に3回以上、実施方法を工夫して行い、連携を図る。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 職場内アンケートにおいて肯定的な回答の割合

項目	3学期
「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」	肯定的回答 100%

年度目標

- 保護者評価アンケートにおいて「そう思う」の割合

項目	7月	11月	2月
「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」	そう思う 61%	68%	(肯定的回答 100%) 77%

取組内容①【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- 働き方改革推進プランに基づき、週1回のゆとりの日を設定し、効率的に仕事を進めることができた。

毎月の職員会議の時には、各行事の打ち合わせ日、配布物の提出日などを共通理解し、各教職員が見通しをもてるようレジメを作成し、配布した。また、打ち合わせの内容について、各自があらかじめ考えておくようにし、時間を短縮すると共に、内容が深まるよう努めた。行事の反省についても、行事後すぐに計画案とともに回覧したり、打ち合わせ時に、短時間で意見を出し合えるようにしたりするなど工夫をした。また、会議の内容を共有できるよう、パソコン画面をテレビに映し、その場で話し合ったことを記録し、確認するようにしたことで、共通理解がよりしやすくなった。また、週1回のゆとりの日には、定時退勤をする努力をした。

取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- 4・5月、6・7月、9・10月の計3回実践記録をとり、研究討議を行った。実践記録の検討会では、子どもが自ら体を動かすことを楽しむ姿や心の動きについて多面的に捉え、教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成について、各教職員が気付きを伝え合い、学びにつながった。

- 5月、6月、9月の計3回、他園の研究保育を参観し、6月、12月の計2回、研究部の研修会に参加した。参観したこと、各園の特色を生かした保育内容の工夫や環境構成を学ぶことができた。また、討議会では、他園の教職員と教育的意図をもった働きかけや環境構成について話をすることで、より深い学びとなり、自園の保育にも生かそうとする意欲となった。また、2月には粉浜小学校で開催された大阪市小学校教育研究会総合研究発表会 生活・総合分科会に全教職員が参観し、幼稚園での遊びを通した学びが、どのようにして小学校以降の学びにつながるのかを考える機会となった。

- 各教員1回以上、全教員で年に1回、研究保育を実施した。

7月（各教員）	プール遊びについて
1月（全教員）	生活発表会への取組について

7月、12月に、総合教育センターから教育指導員に来ていただき、園内研修会を行った。討議を通して、クラスの実態や子どもの発達に応じた、自ら体を動かして遊びたく

なるような、教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成について見直す機会となつた。また、園全体で子どもの実態に合わせて何を育てたいかを話し合い、保育内容を工夫することにつながり、教職員一人一人の資質向上につながった。

取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

○1学期に8回（「こはまっこだより」4回、「園長室だより」3回、保護者会1回）、2学期に6回（「こはまっこだより」4回、保護者会2回）、3学期に6回（「こはまっこだより」2回、保護者会3回、園長室だより1回）子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけなどについて、手紙や降園連絡、保護者会などで分かりやすく伝え、保護者啓発を行うことができた。

4月から毎月、「こはまっこだより」を作成し、子どもの育ちを写真や文章を用いて保護者に知らせてきた。クラスの取組だけでなく、異年齢の交流についての取組や、子どもの育ち合いについて記載し、保護者啓発を図った。日々の降園連絡では、各クラスの子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけや子どものつぶやきについて、具体的に伝えたり、実際に製作したものを見せたりして、分かりやすく伝えるようにした。また、「園長室だより」を作成し、幼稚園教育や子どもの育ち、また、保護者アンケートの結果などについて知らせた。また、保護者会で、就学前教育カリキュラム概要版パンフレットを全保護者に配布し、家庭と幼稚園、地域が連携する大切さを知らせたり、スライドを使って、子どもの姿から、教師の思いや子どもの育ちを伝えたりした。

○週に2回以上、ホームページを更新し、具体的な保育の取組や子どもの育ちを知らせた。日々、子どもの様子を更新することで、保護者アンケートでは「ホームページで様子を見たり、行事に参加して園での様子を見たりすることで、子どもが一人でできることが増えたと成長を感じました」「ホームページで、我が子の成長や楽しんでいる姿が見られるので嬉しいです」など、肯定的な意見があった。

○他校種との交流や、地域の方々とのふれあいなど、1学期に11回、2学期に12回、3学期に5回実施方法を工夫して行い、連携を図ることができた。

1学期	2学期	3学期
未就園児活動		
5月（2回） 6月（3回） 7月（3回）	8月（1回） 9月（2回） 10月（2回） 11月（2回） 12月（1回）	1月（1回） 2月（1回）
他校種、地域との交流		
・住吉幼稚園との交流 (ザリガニ釣り) ・ボールで遊ぼう ・住之江図書館による 『絵本の会』	・文化の集い参加(粉浜地区) ・住吉第一中学校との交流 ・住之江図書館による『絵本 の会』 ・おもちゃランド(粉浜小学 校1年生との交流)	・幼小合同避難訓練(粉 浜小学校) ・凧あげ(北粉浜小学 校1年生との交流) ・わいわいたいけんラ ンド(粉浜小学校1 年生との交流)

5月から毎月2～3回未就園児活動を実施した。未就園児とのふれあいを通して、年下の友達に優しく関わる姿や、思いやりの気持ちをもちながら一緒に遊ぶ姿があり、ふれあいの中で成長する姿が見られた。また、その時期に合った遊びが経験できるように内容を工夫し、家庭では経験できない遊びを体験してもらうことで、幼稚園教育への理解につなが

るようとした。

6月・11月には、住之江図書館の絵本の会の方に、絵本の読み聞かせをしてもらった。いろいろなお話を聞くことができ、地域の方との関わりを楽しむ機会となった。

住吉幼稚園との交流では、6月にザリガニ釣りを行った。ザリガニ釣りでは、ペアになり、一緒に遊んだことで、名前を伝え合い、親しみをもつ姿が見られた。

11月に地域の『文化の集い』に参加した。地域の方に、子どもたちの歌やダンスを見てもらう機会となった。保護者からは、「地域の方に見守られていることに、安心感をもつた」という意見が聞かれた。

他校種との交流では、地域の四校園と交流の機会をもつことができた。住吉第一中学校との交流では、中学生とチューリップの球根を植えたり、一緒に体操をしたりするなどしてふれあい、手づくりの絵本を読んでもらったことで、あこがれや親しみをもつ姿が見られた。11月の粉浜小学校との交流では、事前にいただいた招待状を、5歳児の子どもたちに見せると、『おもちゃランド』の日を楽しみにする様子が見られた。交流では、1年生に手づくりおもちゃの遊び方を教えてもらったり、一緒に遊んだりしたことで、喜びを感じる姿となった。また、園に戻ってから、「小学生がつくっていたどんぐり転がしをつくりたい」と言う子どももあり、その後の遊びにつながる姿となった。1月の北粉浜小学校との凧あげでは、広い校庭で存分に走ることができ、喜ぶ姿が見られた。また、1年生の教室を見せてもらい、椅子に座ったり、勉強道具を見せてもらったりし、進学を楽しみにする姿が見られた。2月の粉浜小学校との『わいわいたいけんランド』では、ランドセルを背負う、給食着を着るなど、小学校生活の体験をすることができ、また、1年生の優しさにふれ、就学への期待が高まった。どの交流後にも、子どもたちとそのときのことを振り返り、感謝の手紙をかく機会をもった。交流で感じた楽しさや喜びを絵で表現し、味わう姿が見られた。

次年度への改善点

取組内容①更に働き方改革が進むよう、隙間時間を活用した仕事の効率化や、打ち合わせのもち方などを工夫する。

取組内容②今後も、研修で学んだ内容を共有する機会をもち、他の教員に学びを広げ、資質向上につなげていく。

取組内容③引き続き、未就園児活動の内容を工夫し実施する。また、他校種との交流時には、打ち合わせの際に、交流後の話も教職員同士で行えるようにし、連携を図る。